

## 「相次ぐ暗殺事件とチェチェンの今」

主催：チェチェン連絡会議

日時：2007年2月24日（土）19:00-21:00 会場：文京シビックセンター学習室

### 資料目次

チェチェン人強制移住の思い出 .....	2
「FSBはロシアを爆破する」 .....	3
チェチェン基礎知識 .....	6
関連記事（東京新聞） .....	7
チェチェンニュース Vol.07 No.05 2007.02.21(抜粋) .....	8

チェチェン戦争を追ってきたロシア人ジャーナリスト、アンナ・ポリトコフスカヤが10月に暗殺されてから4ヶ月が経ちました。翌11月には、プーチン政権とチェチェン戦争を批判してきたFSBの元大佐、アレクサンドル・リトビネンコが暗殺されるなど、ロシアでは政権に批判的な人物の暗殺事件が相次いでいます。

言論の自由の抑圧やNGO活動の規制が急速に進むロシアでは、いったい何が起きているのでしょうか。生前のリトビネンコへのインタビューを交えて報告します。

人口の20～25%が死亡する悲惨な戦争が続いている一方のチェチェンでは、1944年2月23日に、スターリンによってチェチェン民族がまるごと貨車に詰め込まれてカザフスタンに強制移住させられるという悲劇が起きました。

チェチェン民族の半数程度が寒さと飢えで死亡したといわれる強制移住の歴史を、証言ビデオとともに振り返ります。

チェチェン民族の歴史的悲劇を記憶し、チェチェンで今も続く人権侵害を止めるために、毎年2月23日前後には、世界各地でチェチェン関連のイベントが開催されています。

### 主催団体：チェチェン連絡会議とは

「チェチェン連絡会議」は、チェチェン戦争の平和的解決のために活動しているNGOと個人が集まり、この問題への関心を日本の社会で喚起するために、2005年6月に創設しました。この戦争を少しでも早く終わらせるために、日本の国内でロシア軍の侵攻に反対する声を高め、各国の支援組織との連携を深め、国際世論としてのチェチェン戦争反対、ロシア軍の撤退を強く要求していきたいと考えています。ぜひ皆様のご協力と、参加をお願いします。カンパも歓迎します。

●問い合わせ先：146-0082 東京都大田区池上6-30-17 TEL/FAX：050-3329-3951

メール：clc@chechennews.org ウェブサイト：<http://chechennews.org/>

●郵便振替口座：00180-6-261048 口座名称：チェチェン連絡会議

# チェチェン人強制移住の思い出

サイディー・ムサハーノフ（収録時 74 歳） チェチェン人、守衛 カザフスタン共和国アルマトウ在住  
聞き手 岡田一男 用語： ロシア語 収録：2004 年 6 月

家を追い出されたのは 明け方の五時だった  
我々には 信じられなかった 強制移住なんて  
だから強制移住の噂は流言だと  
気にも留めていなかった  
うちらは親戚も父親も 兄弟三人も  
みんな国を守ろうと 戦線に行っていた  
何も悪いことなんかしていなかった  
その朝は大粒の雪が降っていて  
あっという間にひざ近くまで積もってきた  
我が家には兵隊が二人でやって来た  
朝の五時ごろだった  
家の壁には大きな時計が掛かっていた だから良く覚えて  
いるんだ  
一人は自動小銃を構え もう一人は  
ナガン式リボルバー拳銃で武装していた  
彼らは 「大急ぎで支度しろ  
お前らは移送されるんだ」と言った  
どこへとは言わず ただ  
「移送だ。大急ぎで！」と 言うだけさ  
驚いた母さんは「長持ち」の方へ飛んでいった  
昔は何でも大切なものは  
大きな木製の長持ちに入れていた  
お母さんは指輪だの帯だとか

花嫁衣裳だとかをそこにしまっていた  
そこへ母さんが駆け寄ったら 兵隊は銃を  
彼女の脇腹に力いっぱい突きつけた  
驚いた彼女は悲鳴を上げて跳びのいた  
僕はそのころ十歳だったけど  
壁の絨毯に飾られた短剣を抜こうとした  
父さん一族が 代々伝えてきた短剣だった  
でも母さんに銃を突きつけていた  
兵隊に殴り飛ばされた  
兵隊は その短剣を自分の長靴に入れていた  
母さんは 呆然として  
何も支度を出来なかった  
僕は緑色の運動靴 底がゴムの奴を  
履いたままだった。  
上は短いズボンに 半そでシャツのまま  
膝まで雪が積もってると言うのに  
兵隊の一人が家に残り 僕たちはもう一人の  
兵隊に外に連れ出された  
広場中あちらからも こちらからも人々が  
追い立てられていた  
村の広場の中央には  
指揮官の大佐が立っていた  
白い外套を着た大佐は 兵隊たちを  
「早くしろ、早くしろ！」と せきたてていた

# 「FSBはロシアを爆破する」

元FSB中佐・リトビネンコ、アレクサンドル・ワリテロヴィッチ

「LPG=ルビャンカ犯罪集団」の著者 2004年6月 ロンドン北郊のリトビネンコ宅で

聞き手・撮影 常岡浩介 訳・字幕作成 岡田一男

ロシアの政府は自らの特務機関が一九五〇年代末期からは暗殺には従事していないと言うが これは全くの嘘なのだ

ロシアの特務機関はポリシェビキが権力奪取した一九一七年からずっと暗殺に従事して来たと私は断言する

ただ唯一 彼らが暗殺に手を染めなかったのは 一九九一～九三年の間だけだ

八〇年代中ごろから彼らは主にソ連国内での暗殺に従事することとなった

八五年ごろ 国内問題が激化し 外国どころではなくなったのだ

そして九三年から ロシアでの暗殺が再開されることになった

彼らはビジネスマンや政治家の暗殺をはじめた

特務機関による有名な政敵暗殺の例を挙げてみよう

まず下院議員ユシエンコフの暗殺だ

この暗殺の下手人についていろいろとされているが議論の対象にもならないお粗末なものだ

ロシアの特務機関はずっとユシエンコフを監視していた

ユシエンコフ自身 殺される一ヶ月前に 私にそう語っていた

私は彼と親しかったので 何度かロンドンで会っている

最後に彼と会ったとき ユシエンコフは 私に聞いた「アレクサンドル どう思う？ あいつら 私を殺すかな？」と

彼らはユシエンコフを監視し 行動・通信や移動を把握していた

ロシア特務機関の監視下にある人物に手を出すことは普通の殺し屋には 難しい

次は 政治家で民族学者だったガリーナ・スタロヴォイトワの殺害

ペテルブルクの被告人席には 今 暗殺者たちが座っている

私は F S Bで働いていた九七年に この犯罪者たちについて報告しF S Bサンクトペテルブルク支局に 暗号文で通知している

当時の上司 チェルケソフ氏は 現大統領 プーチンの同僚で・・・

非常に親しい友人であり 今も側近の一人だ

しかし マフィア・グループの 誰一人も 逮捕されなかった

大きなスキャンダルがあつて 初めて彼らは逮捕されたのだ

検察当局は スタロヴォイトワの暗殺者を事実上探さなかった

下手人は タンボフ・マフィアのボスと緊密な関係を持っていた

このボスは チェルケソフ氏とも プーチン氏 スミルノフ氏そして パトルシェフ氏とも深いかわりを持っている

パトルシェフはF S B長官 スミルノフは 副長官 プーチン氏はロシア大統領・・・

チェルケソフも 高官の一人だ

タンボフ・マフィアはロシア大統領府第一副長官イワノフとも繋がっている彼は 政府機関幹部人事の全てを掌握している人物だ

これらの人たちは 処罰されることなく活動するタンボフ犯罪集団と もう一〇年以上も 関係をもち続けている

スタロヴォイトワの暗殺者も まさに このタンボフ・マフィアのボスの配下にいる人物たちなのだ

タンボフ・マフィアのボスは F S Bペテルブルク支局が この犯罪を秘匿してくれるという保証もなしには自分の配下に 政治家暗殺を命令することはありえない

プーチンの元上司 サブチャク ペテルブルク前市長もまた説明のつかない死を遂げたことも付け加えておこう

有名な政治家でジャーナリストのシカチーヒンは 毒殺された 彼は放射性タリウムを盛られた

「ノーヴァヤ・ガゼータ」紙の同僚が彼の症状を事細かに話してくれた

彼らは 同僚の臨終の一部始終を見届けていた

私が専門家たちに この症状について 聞いてみたところ みんな一様に 放射性タリウムだろうと指摘した

彼は激しい皮膚の老化に襲われ七日間で三〇歳も年をとったようだったこれは放射性タリウムの中毒症状だ

彼は命は みんなの目の前で七日間で 燃え尽きてしまった

こうした殺人は日常的な問題に起因するよう仕組まれる

殺人は主に 取引がらみのトラブルと見せかけられるところがビジネスをしない人 彼のようなジャーナリストには「ビジネスがらみ」の殺人とするわけにはいかないから そこで 単純に毒殺という手が使われることになるのだ

このように一九九三年から二〇〇三年まで ロシアの特務機関は 主に国内での暗殺に従事してきた

チェチェン領内での例については もう 枚挙のいとまが無い チェチェンでは 人々が誘拐され 連行されて 行方不明となり 懲役判決が出た後にも 指導者たちへの処刑が続いている

ロシアでは死刑がモラトリアム つまり廃止ではないがもう長いこと公式には 死刑は執行されていない

しかし ロシアの特務機関はおかまいなしに 邪魔な人びとを裁判後に殺してきた

野戦司令官のラドゥエフや国家保安委員会議長だった アトゲリーエフは 裁判で 刑期を定めた判決が出たがその後 刑務所の中で処刑された

当局が 彼らを殺したのだ 裁判によらない処刑が行われているのだ

何のために そんなことを 特務機関はするのか？ これは見せしめの処刑なのだ

確かにわが国では死刑はモラトリアムで執行できないしかし権力は 殺したい奴を必ず殺すぞと 明確に示した訳だ

二〇〇四年からは このロシアとチェチェンでやってきた方法をなりふり構わず外国でも行うようになった

ヤンダルビエフ暗殺の数日前にモスクワでは大統領選挙のキャンペーンが始まった

プーチンは大統領職の第二期に立候補を決めたのだ

ロシア各地の集合住宅の爆破と第2次チェチェン戦争開始で プーチンは第一期選挙のキャンペーンをスタートさせた

彼は何を社会に訴え どんなPRができるのか？ 選挙キャンペーンで何ができるのだろうか？

彼にできたのはただ一つだけ 帝国主義的発想で 社会を善玉と悪玉に単純に色分けすることだけだ

彼は ロシアを白か黒か つまりスラブ顔をしているか それともコーカサス顔をしているかにより分けた

コーカサス顔の人々とは テロリストか でないかに分けられた

国民が熱愛する 大統領の強い手腕を見せるために 彼らは次のような扇動の筋書きをつくりあげた

まずモスクワの地下鉄を爆破し この爆発の30分後にプーチンは テレビ出演し 特務機関が 必ずテロリストを始末すると約束した 彼らが 世界のどこに潜んでいるようにも 抹殺すると

プーチン氏は誰が地下鉄を爆破したか知っていると演説した 証拠は何も要らない チェチェンのマスハーフ大統領の仕業だと 彼は何の証拠もなしに ある人物を直接責めたのだ 調査が まだ始まっても いなかった時点でだ

カタールでヤンダルビエフが 爆殺されたのは その二日後だ

私はモスクワの爆破と ヤンダルビエフの爆殺には 直接のかかわりがあると見ている これらは プーチン再選への選挙キャンペーンとして仕組まれたのだ

話題に上がった故人たち： ユシエンコフ、セルゲイ・ニコラエヴィッチ (1950. 6. 27. -2003. 4. 17.) 退役大佐。ロシアの民主的選択代表代行、民主ロシア、自由ロシア共同代表、右派連合などに属した下院議員 民主改革派の安全保障問題の専門家として知られた 下院安全保障委員会委員長 モスクワの自宅付近 (屋外) で銃撃され殺害

**スタロヴォイトワ、ガリーナ・ワシリエヴナ** (1946. 5. 17. -1998. 11. 21.) レニングラード出身の社会民族学者。1989年、民主改革派のソ連人民代議員として政界入り。1991-92年、ロシア連邦大統領民族問題補佐官。1996年大統領候補者。1998年民主ロシア党首。サンクトペテルブルクの自宅付近（屋内）で頭部を銃撃されて殺害

**サブチャーク、アナトリー・アレクサンドロヴィッチ** (1937. 8. 10. -2000. 2. 20.) シベリアで生まれレニングラードで学んだ法律家。レニングラード大時代の教え子にプーチンがいた。80年代末期にソ連の民主改革派に押され中央政界入り レニングラード市ソビエト議長サンクトペテルブルク市長を歴任 プーチンを第一副市長に任じて 中央政界入りを助けた 96年市長選に敗れ フランスに移ったが 2000年にプーチンの大統領選応援でカーニングラードに赴き そこで不審死

**シチェコーチヒン、ユーリー・ペトローヴィッチ** (1950. 6. 9. -2003. 7. 3.) ジャーナリスト。ヤブロコ連合に属した下院議員。「ノーヴァヤ・ガゼータ」紙副編集長。モスクワ大学ジャーナリスト学科在学中から記者活動を続ける 青少年問題の戯曲や映画脚本も多数書いた 下院安全保障委員会副委員長 放射性タリウムと見られる毒物で中毒死

**ラドゥーエフ、サルマン** (1967-2002) チェチェンの野戦司令官。第一次チェチェン戦争時、キズリャールの病院占拠人質事件を起こす奇矯な行動とマスハードフへの敵対で知られる 第二次チェチェン戦争には参加しなかったが 2000年3月にロシア当局に逮捕され 終身刑の判決を受けるが ロシア ペルミの監獄で看守に殴打されて獄死

**アトゲリーエフ、トゥルパン＝アリ** (1969-2002) チェチェンの元副首相、国家保安相。第一次チェチェン戦争時、ラドゥーエフと共にキズリャールの病院占拠人質事件に参加 マスハードフの側近で、エリツィン大統領ならびにロシア特務機関とのチェチェン側交渉責任者であった ダゲスタンで拘束され、15年の刑期を言い渡されエカテリンブルクの獄中で変死

**マスハードフ、アスラン** (1951. 09. 21-2005. 03. 08) 元ソ連軍砲兵大佐。ドゥダーエフ初代大統領の下でチェチェン軍参謀総長。第一次チェチェン戦争を勝利に導き、ハサブユルト合意のあと首相。97年大統領選に勝利するが、ロシア側の挑発とチェチェン側反対勢力の間で苦勞し、99年の戦争再開を食い止められなかった。チェチェン国内に留まって第二次チェチェン戦争を戦いつつ、ロシア側に交渉による和平実現を呼びかけ続けた。潜伏中のトルストイユルト村で殺害

**ヤンダルビーエフ、ゼリムハン** (1952-2004) 詩人。チェチェン独立運動の草分けの一人。ドゥダーエフ初代大統領の下で副大統領を務める。次いで大統領代行として97年の戦争終結と大統領選を成功させるが、選挙でマスハードフに敗れて下野する。第二次チェチェン戦争には参加せず、カタールで亡命生活を送る。同地でロシア陸軍諜報局 (GRU) 将校と見られる刺客により爆殺

**リトビネンコ アレクサンドル・ワリテロヴィッチ** (1962. 8. 30. -2006. 11. 23.) 元FSB (ロシア連邦保安局) 中佐 ヴォロネジで生まれ 北コーカサスのナリチクで成長した 1980年代に内務省勤務を経てKGB (国家保安委員会) に入る テロ対策と組織犯罪対策の専門家だった 97年、FSB組織犯罪組織工作・活動阻止局の前任作戦職員当時 上層部の要人暗殺命令を拒否 弾圧を受けるが 2000年に英国に亡命 「FSBはロシアを爆破する」 「LPG=ルビャンカ犯罪集団」を著す ロシアFSBのテロ活動を暴露し チェチェン独立派と共に鋭いプーチン批判を続けた 2006年秋 元FSB同僚との会食の際 放射性ポロニウム210を服毒し発病し死亡

## チェチェン基礎知識

チェチェン問題は、世界でも最も知られていない紛争の一つである。1991年のソ連邦崩壊の際、コーカサスの小国チェチェンは、ロシア連邦からの独立を宣言した。この国の大きさはおよそ岩手県くらいで、人口は100万人。ロシアは独立を許さず、1994年から軍事侵攻を開始した。それから早くも12年。チェチェンでは20万人以上が戦争の巻き添えになって殺害され、30万人が国外に出て難民化している。

チェチェンでのロシア軍のふるまいのひどさは筆舌に尽くしがたい。99年には、民間人が避難のために移動する車列に上空から銃撃し、赤十字の職員も含め、多数の死者を出した。チェチェン内の各地にフィルターラゲリ（選別収容所）を設け、「テロリストと民間人を識別する」として、さまざまな拷問・虐待を加え、被疑者の家族には身代金を要求する。最近はこうした人権侵害を、現地の傀儡政権のカディロフ首相を中心とする私兵集団「カディロフツィ」が担うようになった。

プーチン政権は、この戦争を「テロとの戦い」と位置付けている。とくに2001年9月11日以降、アメリカを始め西側諸国はチェチェンでの人権侵害に何も注文をつけなくなり、終わりのない暴力が続いている。

ロシアがチェチェンへの侵攻を続ける合理的な理由はあまりない。確かにチェチェンはカスピ海から黒海に抜けるパイプライン上にあり、チェチェンでも石油は産出される。しかしその量はロシアにとっても、周辺のどの国にとっても死活的な量ではなく、パイプラインも迂回路が完成している。この戦争の目的は、軍紀の乱れたロシア軍による現地での闇石油取引や、チェチェンの民間人に対する拉致と身代金の略奪、格差の広がるロシア国



内での「内敵」を作り出そうとする政治上のスケープゴート作りのためと考えたほうがよいだろう。

2006年10月7日、モスクワで一人のジャーナリストが暗殺された。隔週で30万部を発行する新聞、「ノーバヤ・ガゼータ」紙の記者アンナ・ポリトコフスカヤさんだ。彼女は1999年からチェチェン取材し、プーチン政権と、現地のカディロフ首相を批判しつづけており、日本でも、「チェチェン やめられない戦争」（NHK出版2004年）などの訳書で知られている。2004年の北オセチア・ベスラン学校占拠人質事件の際には、交渉人として現地入りしようとしていたところ、飛行機の機内で毒を飲まされ、中毒に陥ったこともある。その後執筆に復帰したものの、彼女を狙う者たちはしつこかった。

彼女は、モスクワ中心部にある自宅の集合住宅のエレベーターの中で、4発の弾丸を撃たれて死亡しているのが発見され、殺害に使われた銃もその場に残されていた。犯人の行方は杳として知れない。この日はプーチン大統領の54歳の誕生日だった。多くの人の命を奪いつつ、チェチェンでは今も戦争が続いている。（大富亮／チェチェンニュース発行人）

# ロシア元中佐毒殺事件 重要参考人

## ルゴボイ氏



リトビネンコ毒殺事件の力を握るルゴボイ氏 AFP・時事

リトビネンコ事件 昨年11月1日、リトビネンコ氏がロンドンのホテル・バーでルゴボイ氏やロシア人実業家コフトゥンと面会後、体調を崩して入院、同23日に死亡した。体内から猛毒の放射性物質ポロニウムが検出され、英捜査当局は毒殺事件と断定。ルゴボイ氏自身や立ち回り先からも検出されたことから、英紙などは英捜査当局が同氏を容疑者と特定したと報じている。

# 政権と「特殊な関係」

## 旧KGB「第9局」の出身

## プーチン氏政敵をかつて警護

「私は祖父の時代からの軍人一家に育った」ルゴボイ氏はロシア紙に自らの生い立ちについて、そう語っている。ソ連で最も権威の高い最高会議軍事大学を卒業後、クレムリン宮殿の付属部隊に入り、一九八七年からはKGB九局に配属された。

ソ連で最も権威の高い最高会議軍事大学を卒業後、クレムリン宮殿の付属部隊に入り、一九八七年からはKGB九局に配属された。最後に警護を担当したのが、政商から安全保障会議書

ロシア連邦保安局（FSB）の元中佐リトビネンコ氏が毒殺された事件で、英捜査当局は同氏が倒れる直前に面会していた旧ソ連国家保安委員会（KGB）の元将校ルゴボイ氏（右）を「重要参考人」とみて事情聴取を求めている。かつて首相代行、外相ら政権の要人警護を務めたクレムリンとの接点もあってみられるルゴボイ氏の正体とは。（モスクワ・稲熊均）

氏の暗殺を指示されたと暴露したリトビネンコ氏もロンドンに逃れた。

この間、ルゴボイ氏の動静には謎が多いが、〇一年には詐欺で服役中だった航空会社エアロフロートの副社長を逃亡させ、逮捕されている。

この副社長は出所間近だったこともあり、奇妙な逃亡ほう助と指摘された。逃亡直後には拘束され、副社長の刑期はむしろ延びている。このため出所後の副社長が詐欺事件の「内幕」を暴露すると恐れられた勢力が、ルゴボイ氏らを使って「逃亡・再逮捕劇」を仕掛けたともみられてきた。

この詐欺事件は、エアロフロート幹部が巨額の利益を海外に不正送金し横領していたというもので、副社長が責任者として罪を負ったが、実は当時のオクロフ社長が「黒

## 実業家として「なぜか」成功

幕だったとの見方もある。同社長はエリツィン前大統領の娘婿だ。前大統領から家族の安全を保障することを条件に後継指名されたプーチン大統領としてはオクロフ社長の訴追は避けたい。それを知るFSB上層部の工作だったともみられる。

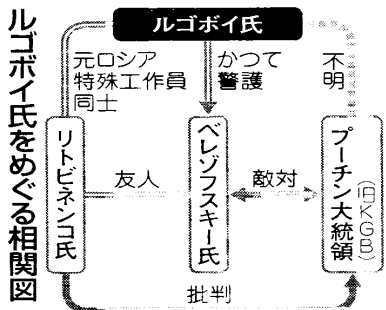
この逃亡ほう助事件でルゴボイ氏は一年二月の懲役を受けるが、出所後は実業家として成功。警備会社経営のほか、飲料メーカーの役員にも名を連ねている。

ベレゾフスキー氏は、ルゴボイ氏について「（プーチン政権と敵対する）自分と親しかった人間は皆、ロシアで仕事をみつけるのも困難な中で彼の成功は奇妙だ」と述べ、FSBやクレムリンとの「特殊な関係」を示唆している。

昨年十一月にリトビネンコ氏と面会したことについてルゴボイ氏は「彼の方から商談があると言ってきた」と証言。毒殺には一切、関与していないと強調している。

ただ、ルゴボイ氏自身や立ち回り先からポロニウムが検出されたこともあり英捜査当局は事件解明の力を握る人物とみている。しかし、かつて上司だったゴルジャコフ元大統領警護局長は断言する。

「（事情聴取しても）彼は絶対に真相は明かさない。事件はいずれ忘れられる」



ルゴボイ氏をめぐる相関図

チェチェンニュース Vol.07 No.05 2007.02.21 (抜粋)

チェチェン紛争の情報+α を発信するメルマガです。購読は無料です。下記のリンクからどうぞ：

<http://chechennews.org/chn/0705.htm> (HTML版) 発行部数：1662部

## ■リトビネンコ暗殺事件関連

### ロシア検察官がロンドンへ派遣 [Caucasian Knot 2/17]

<http://eng.kavkaz.memo.ru/newstext/engnews/id/1177280.html>

リトビネンコ暗殺事件の調査に関して、来週にもロシア検察官がロンドンに派遣される予定。インディペンデント紙が報じた。

### ロシア上院議長、国際法廷でザカーエフの引渡しを要求か [Caucasian Knot 2/15]

<http://eng.kavkaz.memo.ru/newstext/engnews/id/1176623.html>

ロシア上院議長のグリズロフが、近いうちに国連の国際法廷を設置して、ロンドンに亡命中のチェチェン独立派のザカーエフ副首相をテロリスト容疑で引き渡すよう要求すると述べた。

### ベレゾフスキー氏ら引き渡せ＝毒殺事件捜査協力で英に要求－ロシア [時事通信 2/9]

リトビネンコ暗殺事件に関して、ロシア政府は、捜査協力の見返りとして、英国政府に対してベレゾフスキーとザカーエフの身柄引き渡しを要求。英国は今のところ要求を拒否している。

### 露特務機関に「暗殺部隊」元スパイ怪死も関与か 改革派新聞報道 [産経 1/13]

12日のノーバヤ・ガゼータは、FSB、GRUなどの各特務機関が作成した、犯罪組織対策の軍事実働部隊設置に関する内部の指示書を入手したと報道。この秘密組織がポリトコフスカヤやリトビネンコの暗殺に関わっている疑いがあるという。しかもこうした事件に対する捜査は、ある段階で必ず上層部からの介入があり、事件解明がつぶされている。

## ■国際・人権・報道の自由

### EU、北コーカサスへの支援を開始 [ラジオ・リバティ 2/13]

<http://rferl.org/featuresarticle/2007/02/9DF1CC59-0134-4AE9-A22F-9913ED17FC4F.html>

EUが北コーカサスへの復興開発計画（予算：2600万ドル）を開始した。復興開発計画は、チェチェンとイングーシ、北オセチアを支援対象として、保健システムや教育、雇用促進を目的として、ユニセフや世界保健機関（WHO）と共同で実施される。

### ブダーノフ事件、再び？ [Caucasian Knot 2/13]

<http://eng.kavkaz.memo.ru/newstext/engnews/id/1176461.html>

チェチェンの住民を殺害した容疑に問われている治安機関のフドゥヤコフとアラクチェエフに対する裁判が、北コーカサス管区軍事裁判所で再開された。事件を調査した最高裁判所軍事部は、二人を有罪にする明確な証拠はないとしている。アラクチェエフの今後の担当弁護士は、ブダーノフ事件でブダーノフを擁護したアレクセイ・ドゥリモフになる模様。

### 欧州評議会議員総会、チェチェン問題を議題に [Caucasian Knot 2/12]

<http://eng.kavkaz.memo.ru/newstext/engnews/id/1176327.html>

欧州評議会議員総会（PACE）が、パリで開催される会議でチェチェン問題を取り上げると表明。欧州評議会にはロシアも1996年から加盟している。